強盗想定、防犯意識高める

東濃信金広小路支店の職員が訓練

強盗事件を想定した防犯訓練に臨む職員＝多治見市広小路、東濃信用金庫広小路支店

多治見市広小路の東濃信用金庫広小路支店で21日、強盗事件に備えた防犯訓練が行われ、職員が対応を確認した。

訓練は年末を控え、防犯に対する意識を高めようと多治見署に依頼して実施。強盗に扮した署員2人が、職員を人質に取り、模擬拳銃を発砲して脅迫し、現金を奪って逃走する―という想定で行われた。

職員は非常ボタンを押して通報し、時間をかけて現金を渡した。犯人の逃走後は、人相や服装をシートに書き込み、駆け付けた署員に犯人の特徴を伝えた。

同署の亀山真弘生活安全課長は「服の模様や方言、車種、ナンバーなど、もう少し細かい部分が分かると、犯人逮捕につながりやすい。迅速な対応ができるよう常にシミュレーションをしてほしい」と講評した。

(湯浅裕作)

無断複製・転載を禁じます